



ショッピングセンター 「ダイナシティ」(小田原市)の 地域防災への取組



㈱ダイナシティ 取締役
かろうじ たかし
CRE事業部長 唐牛 豊知

1 ダイナシティの概要

ダイナシティは、平成5年に第1期開発としてイトーヨーカドー小田原店を核店舗として39の専門店が集まるショッピングセンター（ダイナシティイースト）として誕生し、第2期開発で平成12年にダイナシティウエストが竣工し、平成14年に第3期開発でシネマコンプレックス（TOHOシネマズ）を中心とするダイナシティウォークがオープンしました。ショッピングセンター「ダイナシティ」はイースト、ウエスト、ウォークの3エリアからなる施設です。

○ショッピングセンター「ダイナシティ」の概要

所在地	神奈川県小田原市中里208
開設年月日	1993年10月21日
店舗面積	70,912㎡（飲食・サービス含む） 敷地面積：136,158㎡、延床面積：179,240㎡
テナント数	120店舗
駐車台数	約 4,000台（無料）
年間客数	約 1,300万人
登録従業員数	約 3,000人

2 地域防災への取組

ショッピングセンターは、不特定多数のお客が訪れる業態の異なる複数の企業・店舗の集合体なので、地域のインフラとして常に地域のニーズに対応することが求められています。

■地域防災の取組事例-1「ウルトラ防犯灯」

ショッピングセンター敷地内4ヶ所に「ウルトラ防犯灯」を設置し、店舗の営業時間外に散歩するお客もカバーできるように24時間常駐する警備員と連動して防火・防犯にあたっています。

■地域防災の取組事例-2

「緊急地震速報と小田原市防災無線の活用」

産業用の緊急地震速報を導入し、館内放送と連動してお客に知らせるとともに、地震波が到達する前

にエレベーターを最寄階に停止させてエレベーター内に閉じ込められる事故を予防する観点からエレベーターの運転に緊急地震速報の信号制御をかけています。また、送電線への落雷による瞬間電圧低下が発生した場合、エスカレーターが停止することがあることから詳細な落雷情報を取得し、館内放送による注意喚起やエスカレーターへ係員の立哨を実施する等で事故防止・安全管理を行っています。また、災害等の地域の情報が敷地内の多くのお客へ周知できるように小田原市より防災無線を敷地内に設置いただき、館内放送では届かない屋外の駐車場をカバーしています。



防災センター内の緊急地震速報と雷・気象情報のモニター

■地域防災の取組事例-3「災害時臨時ヘリポート」

災害時にヘリコプターによる緊急活動（救援部隊・物資等の輸送、重症患者の後方搬送など）を行うために臨時的発着所として小田原市の指定を受けています。ダイナシティに隣接する小田原市のタウンセンターは「物資救援等ターミナル」となっており、広域避難所となっている地域の小学校と連携が図られています。

■地域防災の取組事例-4

「小田原市災害用指定井戸の設置」

2011年3月の東日本大震災時に4本ある井戸のうち、1本が地下水の汲み上げが出来なくなったことから、それぞれの井戸が別々の地下水脈から汲み上げている状況を踏まえて、各井戸水の貯水槽を連結して、一方の井戸からの給水が停止してももう一方の井戸から給水出来るように設備仕様を変更して信頼性を高めています。

■地域防災の取組事例-5「災害対応備蓄のそなえ」

災害発生時に帰宅困難となった従業員やお客、近隣の一時避難住民用として、備品をストックしています。この他に総合スーパーマーケットや百貨店の商品在庫の活用もあります。また飲料自販機管理会社と水と食品の提供を受ける協定があります。今後は、大地震後の復旧に必要な資機材を検討・備蓄する予定です。

○2015年1月現在の備品ストック状況

品名	数量	品名	数量
毛布	1,080枚	簡易トイレ	1,800枚
アルミックシート	400枚	カロリーメイト	2,520食
サバイバルシート	400枚	ご飯類	200食
ブルーシート	3枚	ビスケット類	3,400食
水	500ml×3,000本、2L×170本		

■地域防災の取組事例-6
「小田原市と津波一時避難ビル協定」

これまでもダイナシティの一部が、近隣自治会の一時避難場所として指定されていましたが、2011年3月の東日本大震災と、その後の津波被害想定の見直しを受けて、小田原市、地域住民の要請から立体駐車場を8,000名の受け入れが可能な「津波一時避難ビル」として協定を締結しました。これを受けて備蓄の毛布・シート類の備蓄強化を行っています。また、2014年9月には、地元自治会の200名が参加した避難訓練を実施しました。



ダイナシティは海拔12mです。駐車場のスロープを使って避難訓練している様子

■地域防災の取組事例-7
「避難場所へ太陽光発電設備の導入(一部、補助金活用)」

昨年、ウエストに太陽光発電設備と蓄電池設備を津波避難場所の最低限の電力を確保する目的で設置しました。どちらも16KW程度ですが、避難場所やトイレの照明、各種情報を得る為のテレビ、ラジオ、携帯電話の電源としての活用を想定しています。イーストには、館内での避難集合場所として有力なフードコート照明設備や携帯情報端末の充電用を想定して設置しています。

■地域防災の取組事例-8
「地域への防火・防災等の周知活動への協力」

ショッピングセンターの果たすべき役割として、その社会に必要な情報の発信と地域社会内の相互コミュニケーションの場として機能することが重要です。小田原市消防本部との各種「防火・防災に関するイベント」や小田原市役所との「環境関連イベント」「福祉関連イベント」や、その他各種NPO団体等とのイベントによる情報発信が年間210件行われています。近年でいえば、住宅用火災警報器の設

置に関する広報をはじめ、身近な消防活動の理解と啓発に役立てられています。



毎年開催の「消防フェスタ」の様子

3 今後の取組及び結びに

小田原市では、「神奈川県西部地震」「東海地震」等の地震に加えて、富士山や箱根の噴火事案も心配されています。このような地域にあり、ダイナシティという不特定多数の方が来店されるショッピングセンターの事業継続計画(BCP)作成に取り組んでいます。昨年中に各業種・業態の異なる店舗や業務委託先とのヒアリングを終了しており、災害からの復旧時のボトルネックの把握と対応を決め、施設内周知、PDCAを進めていくこととなります。

地域の生活の大事なインフラとしてのショッピングセンターの活動は多種多様です。そこでの「防火・防災」への取組も発信していく対象や手法においてもやはり多種多様となります。地域防災を考える上で多様な商品・サービスの提供や各種イベントの実施を通じて、地域の皆様の防災力を高めることに繋がる情報発信が最も大切で、次いで、自らのショッピングセンターの災害対応力、防災力を高めていき「こころ豊かな生活」をおくれるように応援していくことが私たちの地域防災活動の大きな柱です。私たちを取り巻く、各ステークホルダーとともにショッピングセンターの安全・安心に取り組んでまいります。